

「聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の
効果的な療育方法の開発等に資する研究 2」
についてのご説明

●研究の目的と意義

近年、生まれつきの聞こえの悪さ（先天性難聴）に対する治療が進歩しており、人工内耳はその代表的な一つに挙げられます。私たちはこれまでに約 100 例の先天性難聴の患者さんに人工内耳手術を行ってきました。良いコミュニケーション能力をつけるためには手術後早期からのきき取りやことばの訓練がとても大切ですが、現在、難聴児を持つ親御さんにとっては、難聴児の医療や教育に対する情報を受け取る機会や難聴児を育てていく上での疑問点を解決するための手段とその情報源が少ないのが現状です。そこで私たちは、先天性高度難聴児に対する多職種連携による最適な療育方法の確立とその全国への周知を目的として研究を実施し、難聴者が健聴者と同様の社会生活をめざす機会を提供します。

●研究内容

対象となる患者さんは、聴覚障害の小児および成人の患者さんで、1997 年 1 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日の間に、人工内耳植込術の手術を受けた方を対象とします。

予定症例数：当院 20 例（全体 100 例）

利用する情報は以下になります。

- ・患者背景：性別、年齢、基礎疾患、難聴の病因
- ・病態、難聴以外の障害、難聴診断年齢、新スク受診の有無、新スク後の療育方法、療育施設名、人工内耳手術を受けた年齢、人工内耳後の療育方法、通常学校進学の有無
- ・言語・聴覚検査：介入前後の言語発達の程度、介入前の難聴の程度・パターン、介入前後の語音聴取能検査
- ・発達検査：津森式発達検査、IT MAIS, IT MAIS

本研究について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご
いて詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

連絡ください。

●個人情報の管理について

論文、学会発表のため検査結果の公表を行う際には個人を特定できない形で行います。本研究の実施過程およびその結果の公表（学会、論文）の際には患者さんを特定できる情報はいっさい含まれず、目的外の使用を行いません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

対象期間の方の中でこの研究に診療データを提供したくない方は下記までご連絡ください。ただし、ご連絡をいただいた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことが出来ず、研究参加を取りやめることが出来なくなります。

● 研究期間

病院長承認日から 2025 年 3 月 31 日まで

● 医学上の貢献

研究結果は新しい難聴児の医療、教育のシステムづくりやそれらの発展に役立つことが期待されます。

●問い合わせ先

(平日)

〒060-8543 北海道札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座	研究責任者	高野賢一
	研究分担者	小笠原徳子
		宮田 遼
		角木拓也
とも耳鼻科クリニック	研究協力者	新谷朋子
札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座		海崎 文
		木村彩美

電話 011-611-2111 内線 34910 (教室)

(土日祝日時間外 電話 011-611-2111 内線 34960 耳鼻咽喉科病棟)